

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人かりがね福祉会 放課後等デイサービスミライエ		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月22日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月22日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月24日(水)		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人で計画・実施している研修があり、スキルアップの時間がある	・勤務時間上、研修参加できない場合は録画映像で当日の研修内容を確認できるようにしている。 ・外部研修の案内も積極的に提示等を行い、スキルアップに時間を確保している。	・個々のスタッフの階層に沿ったスキル等の研修を計画していく。 ・外部研修の積極的な参加。 ・事業所内でのミニ研修等の開催。
2	人材確保の取り組みを含むアルバイトスタッフの受け入れをしている。	人員確保という面もあるが、リクルートという面でも法人に興味をもってもらえる、障がい福祉に興味を持ていただき、就職の選択肢として幅が広がるよう意識している。 ※今年度はアルバイトスタッフから就職に繋がったケースが1件あり。	引き続きアルバイトスタッフの受け入れに取り組んでいく。
3	ご利用されているお子様の特性に配慮した取り組み、チーム支援と環境作り	ミライエは、ASD(自閉スペクトラム症)の方が利用数の8割と大半を占めている為、個別スペースを活用し刺激を少なくした空間作り、視覚ツールを活用した見通しを持った過ごし方の提供等、アセスメントを用いて、お子様一人一人の特性に配慮した支援と環境作りをしている。その他、ADHD、重心の方も含め様々な障がい疾患があるお子様が利用している。個性豊かなお子様達との生活の中で、スタッフ一人一人も個々に合った関わりを自然と学べる環境となっている。 個別支援計画を重要視したチーム支援。	より、ご利用されているお子様たちののこ事を理解するために、フォーマルアセスメントを見直しをし活用していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	正規スタッフとパートスタッフのコミュニケーション	スタッフによって、勤務時間が異なること、送迎や正規スタッフは法人業務等により昼礼は取り組みにムラがあり、当日勤務のスタッフで終礼ができないということがある。月1回のスタッフ会議は設けているが、支援に関することも含め正規スタッフとパートスタッフとのコミュニケーションは少ない。	昼礼に関しては、現在も行っている引継ぎシートの活用を継続して取り組んでいく。業務の細分化も行い、会議以外でもスタッフ同士のコミュニケーションの時間を作っていく。
2	家族支援の取り組み 研修等の情報発信と、保護者様とのより密に取り組むコミュニケーション	まずは、情報の少なさも一つの要因ではあるが、保護者様の学びの機会など幅広い情報発信はチラシの配布等ではなく、口頭で伝えるという手段が多かったと思う。事業所の発信力不足もあり、今後は事業所側から積極的に発信していくことが必要と考える。 送迎時を中心に、必要により個人面談も行い保護者様とのコミュニケーションを取ってきている。電話やメールも活用しているが、直接話ができる面談という手法も活用していけるよう業務の見直しも必要。	関係機関から情報収集を行いながら、事業所から積極的に情報を媒体を活用し発信していく。学びの機会は少ないということもあり、事業所側から保護者の皆様に向けた学びの発信もしていきたい。 保護者の皆様にもご協力をいただきながら、より面談の時間も設けていく。
3	インクルーシブ支援について	ミライエご利用されているお子様たちの個々の特性より、事業所単体での児童クラブ等との交流は難しい。法人全体での取り組みとしてイベントも開催している。児童関係全体でインクルーシブ支援が重要視されている中で、地域資源がある真田町において、まずはお子様同士ではなく地域の児童関係の職種の方との交流等も検討していき、幅を広げられるようにしていきたい。	地域の児童クラブや保育園、幼稚園等との交流の機会を検討していく。障がい福祉の勉強会など。